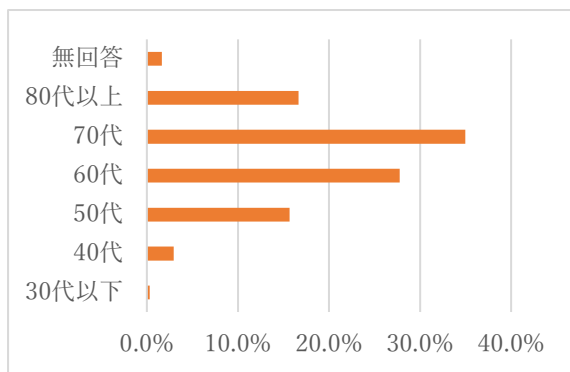


令和3年度野々市市の農業に関するアンケート（概要版）

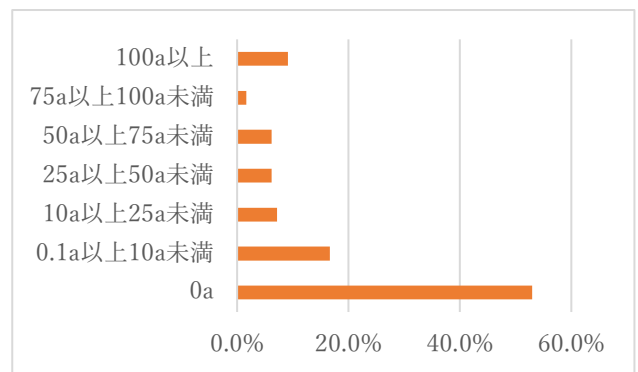
306名の皆様のご協力を得て実施しました「令和3年度野々市市の農業に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、概要版として、ご報告させていただきます。なお、報告書（本編）は、各生産組合長に配布しておりますので、詳細は生産組合長にお問い合わせください。

アンケートに際し、多くの方々から貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

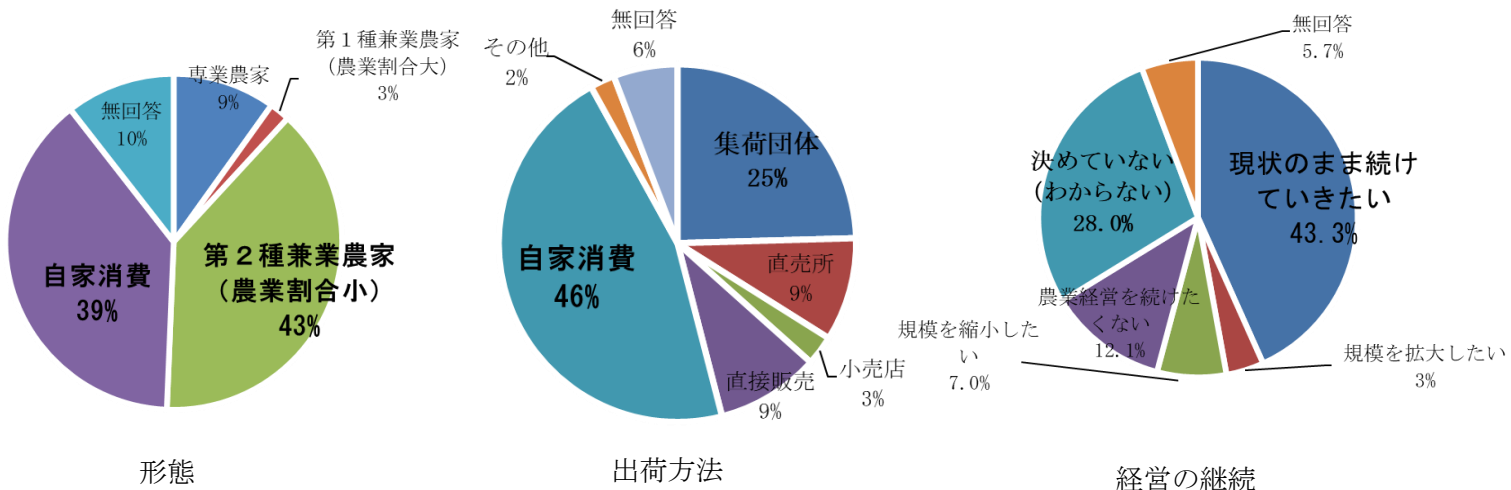
1. 回答者年齢（男女比9：1）



2. 農地の自作面積



3. 農業経営の形態・出荷方法・経営の継続

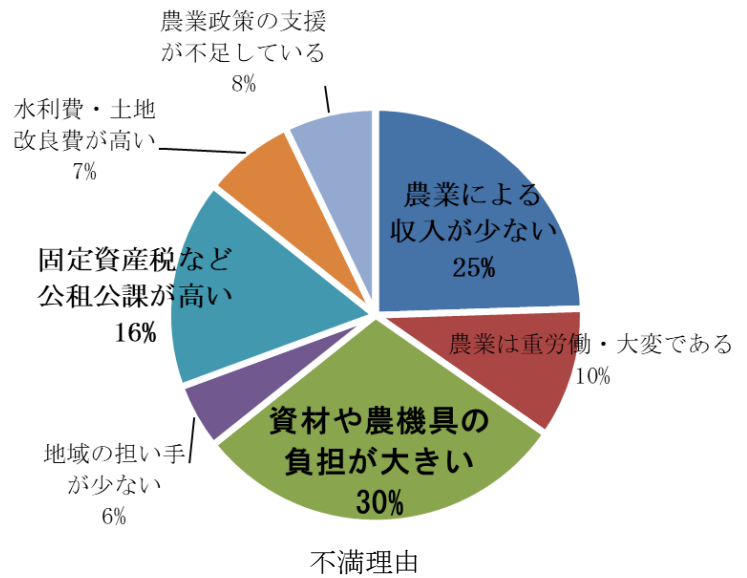
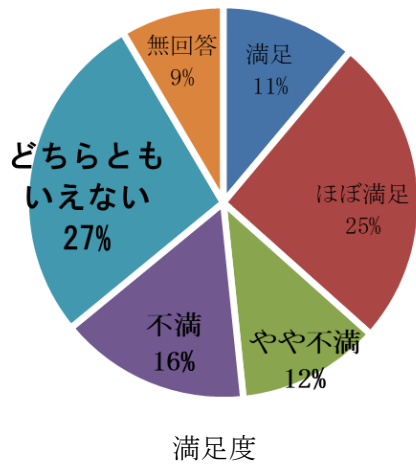


形態としては、「第2種兼業農家」と、「自家消費」の割合は合わせて82%となり、農業経営の規模が小さい農家が多かった。

出荷方法としては、「自家消費している」の割合が46.0%、次いで「集荷団体に出荷している」の割合が25%となっている。

今後の農業経営に関しては、「現状のまま続けていきたい」の割合は43.3%となり、「決めていない（分からない）」の割合が28.0%となった。「現状のまま続けていきたい」は、前回（平成27年調査）より6%増加した。

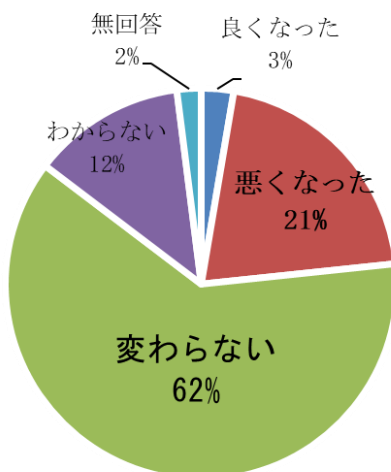
4. 農業経営の満足度・不満である理由



農業経営満足度は「どちらともいえない」と回答した割合が 27%で、「やや不満」及び「不満」と回答した割合は合わせて 28%となり、不満とやや不満は前回調査に比べて、あわせて 11%減少した。

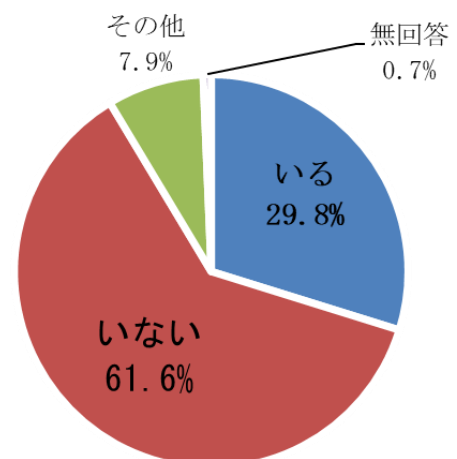
不満理由については、「農業資材や農機具の購入・維持の負担が大きい」の割合が 30%、「農業による収入が少ない」の割合が 25%、「固定資産税などの公租公課が高い」の割合が 16%となった。

5. 農業経営の変化



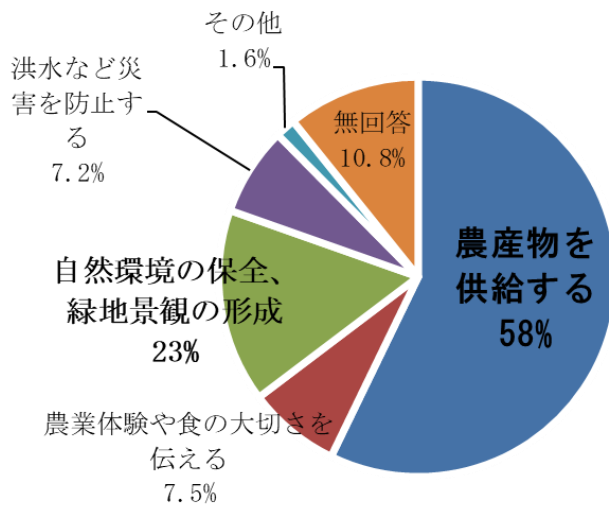
「変わらない」と回答した割合は 62%を占めた。次いで「悪くなった」と回答した割合は 21%となったが前回より 5%減少した。

6. 農業後継者



農業経営の後継者が「いる」と回答した割合が 29.8%、「いない」と回答した割合が 61.6%となっていた。後継者が「いる」と回答した者の、後継者の平均年齢は 46.2 歳となった。

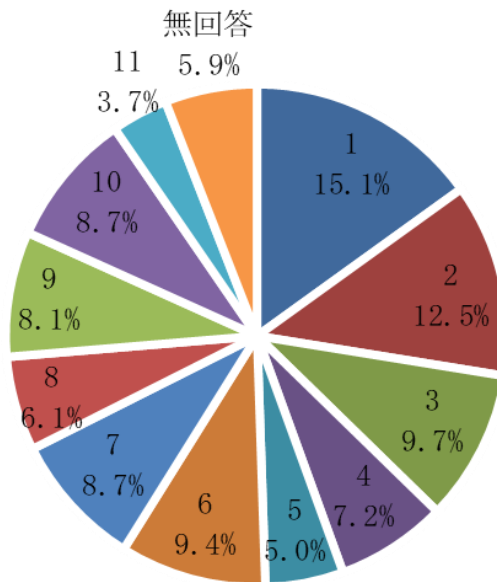
7. 農業振興地域の役割



「農産物を供給する役割」と回答した割合が 58%を占めており、次いで「自然環境を保全し、緑地景観を形成する役割」は 23%を占めていた。

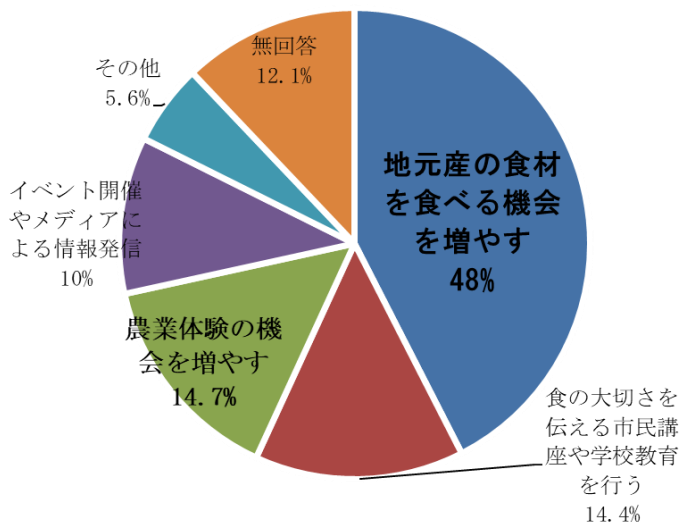
8

・ 野々市市の農業に必要なもの



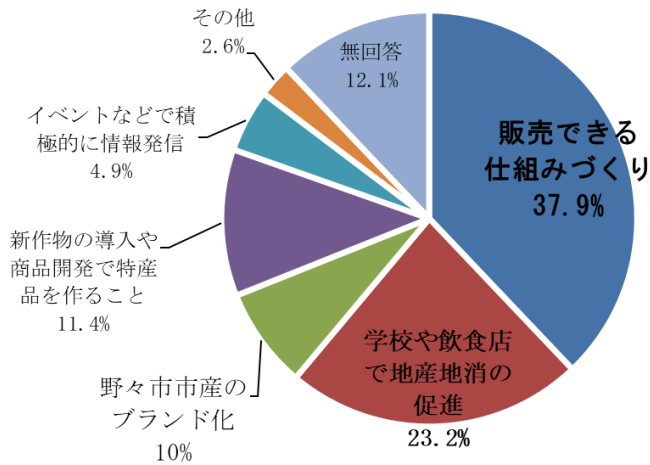
- ・ 1 農家同士の連携
- ・ 2 新規就農者や後継者の育成
- ・ 3 農業の企業的な経営の実施
- ・ 4 融資制度や補助金の支援
- ・ 5 市民へ農業を知ってもらうこと
- ・ 6 定年退職後も農業ができる環境づくり
- ・ 7 優良農地の確保や保全
- ・ 8 農業基盤の整備
- ・ 9 農業生産技術の向上
- ・ 10 農業と食品産業の連携
- ・ 11 その他
- ・ 無回答

9. 農業を身近にするために必要なもの



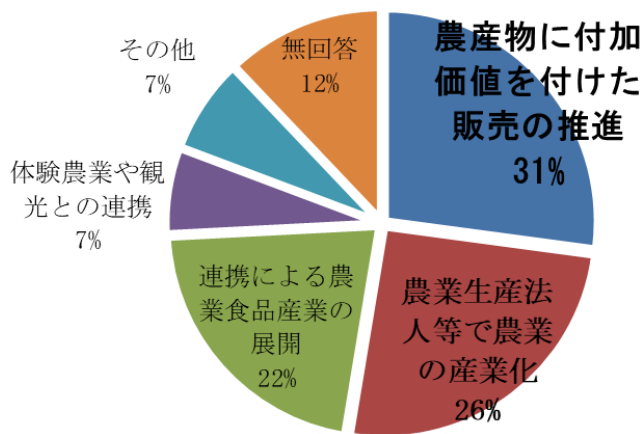
「地元産の食材を食べる機会を増やすこと」が 48%と、非常に高い割合を占めていたことから地産地消に対する関心が高いことがわかる。次いで「農業体験の機会を増やすこと」が 14.4%を占めた。

10. 野々市市の農産物の販売促進に必要な取組



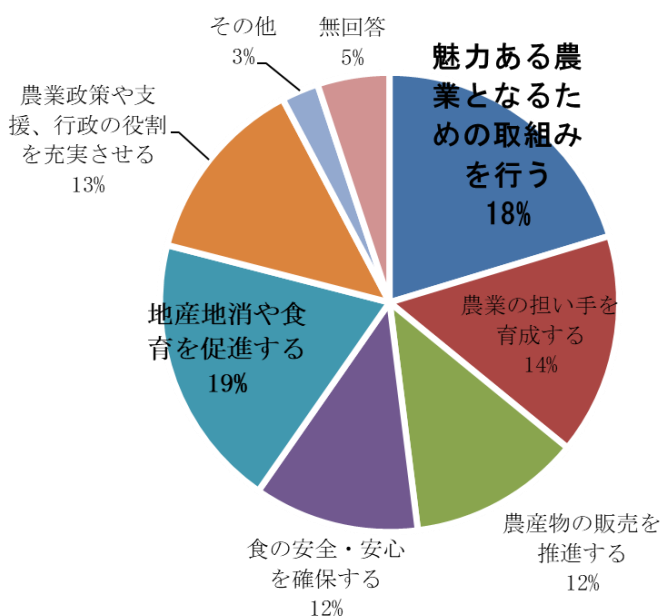
「販売できる仕組み（売れる産品・販売ルート・直売所）をつくること」と回答した割合は37.9%を占めており、次いで「学校給食や飲食店等の地産地消の利用を進めること」が23.2%を占めていた。「野々市市産のブランド化を図ること」は、10%に留まっていた。

11. 今後の野々市市の農業のあり方



「農産物に付加価値を付けた販売を推進する」と回答した割合が31%、「農業生産法人等によって農業の産業化を進め雇用を拡大する」が26%を占めた。

12. 野々市市の農業政策に期待すること



「魅力ある農業となるよう取組みを推進する（話し合い・仕組みづくり・財政措置等）」と回答した割合は18%となり、「地産地消や食育を促進すること」が19%を占めた。